

クルリンと ほしざらさんぽ 8月号

夏休みは楽しいことがいっぱい！

夏休み、ほしざらさんぽにぴったりですね。自宅の周りでもお出かけ先でも、夜に晴れそうだなと思ったら心の準備をして、ほしざらさんぽにでかけましょう。

月の観察をしよう

夏休み中に観察しやすいもの、な～んだ？

それは月の満ち欠けと月の動き。夏の月はあまり高くない南の空を動いていきますので、秋から春までの月に比べると、月の動きを観察して勉強しやすいのです。何日か続けて観察できれば「月の動きのきまり」なんか簡単に分かってしまいますよ。そこで…

① 見る場所は？

月はどこでも見えますね。でも理科の勉強として観察するには、空が広くて東から西まで開けている場所が最高。家の近所が望ましいので、昼間のうちに近所を探検して場所を決めておきましょう。街灯がそばにないところがいいんですよ。どうしてか分かりますか？

② 何日ごろ？

今年は8月8日から20日までが適しています。夕方の、空がまだ明るいうちから月を探しておきましょう。

③ どうやって？

① 月はどっちに動くのかなあ？ 30分の間をおいて2回見ます。1回目には月がどちらへ動くか予想しておきましょう。

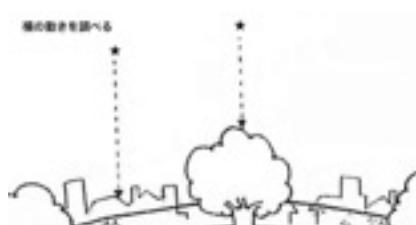
② 図のように月の高さを調べてメモします。まったく同じ場所に立たないと月の動きが見つかりませんよ。

同時に月から地上物に垂線を下ろしてメモしておきます。



③ それを写真に写す工夫をします。

スマホでもデジカメでも、月の位置が分かるよう



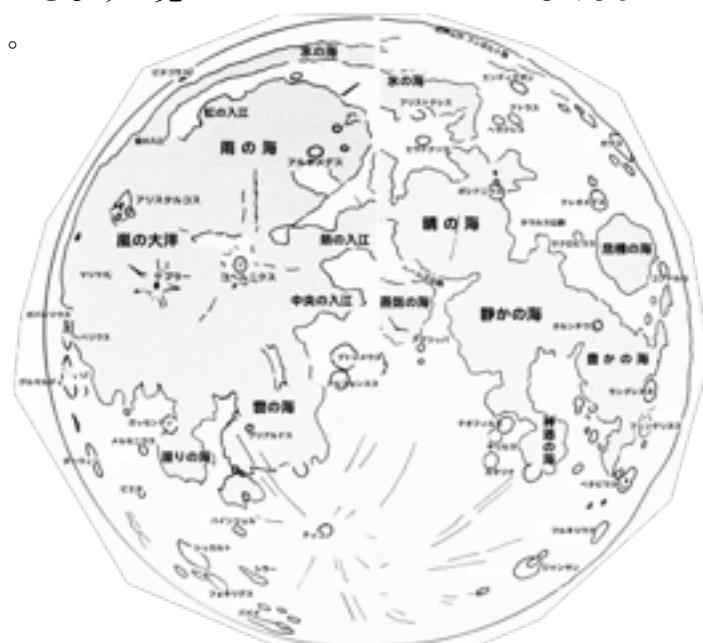
に気をつけて、風景写真を撮るようにしてふつうに1枚目を撮ります。1時間したらもう一度同じ角度・同じ向きで2枚目を撮ります。2枚の時間間隔かんかくは30分以上、長いほどはっきりと月の位置のちがい、つまり月の動きを写すことができます。

月の表面は？

月の表面の模様もようは望遠鏡でないと見えない？ そんなことはありません。8倍ぐらいの双眼鏡でもちゃんと見えますし、双眼鏡の方があつかいやすいから試してみましょう。そして月面図と比べてみて、月の代表的な地形を確認しましょう。半月ぐらいが一番よく見えます。満月だと月のクレーターの影がなくなってしまうので、きれいな形には見にくくなります。

晴れたら必ず月を観察しましょう。形の変化だけでなく、空のどこに見えるかも変化しますが、そのきまりが見つ

かるでしょう。



夏の大三角

夏の大三角はちょっと難しい。なぜならば8月半ばの午後8時頃には、夏の大三角はほぼ天頂（頭の真上）近くにあって、見上げるのに首がつかれ

ますし、どれがベガでどれがアルタイルか方角が難しくなります。とても見にくいで、東を向いて地面に横になって見るといいかも。でもくれぐれも車が通る道路でねっころがるのはやめてね。

8月12日の夜 ペルセウス座流星群

夏休み中に流れ星が見られたらラッキーですね。毎年8月12日にペルセウス座流星群を見る事ができます。今年の極大（流れるピーク）の予報は12日の深夜ですが、あくまでも予報ですので、13日の夜も夜空を見上げましょう。夜半前には半月が

西の空にいるけれど、月明かりはそれほど明るくないので条件は悪くありません。この流星群ではかなり明るい流星が流れることもあるので、明るい伊勢原市内でも、空が開けていて、周りより暗い場所ならば、明るい流星ならば見えるでしょう。もっとも夜空が暗い場所に比べたら数は少なくなるけれど。

市内で見るときには、特に周りの安全に気をつけてね。車がたくさん通る道路で見るなんかは絶対にダメですよ。

